

平成31年度

劇場・音楽堂等機能強化推進事業

(劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業)

自己点検報告書

団 体 名	公益財団法人川崎市文化財団
施 設 名	ミュージア川崎シンフォニーホール
助 成 対 象 活 動 名	～音楽で人と人をつなぐ～ 音楽によるまちづくり推進事業
助 成 期 間	5 (年間)
内 定 額	54,482 (千円)

# 1. 事業概要

## (1) 事業計画の概要

全体図（概念図）

ミューザのミッション

すべての人がつながるまち～共生社会の実現～

を目指す

### 【頂点】

最高峰の音楽芸術の創造・発信

フランチャイズ・オーケストラとともに国際的レベルの音楽創造・発信を推進する

我が国のオーケストラ文化発展への貢献



### 【広がり】

音楽のすばらしさと演奏の喜びを味わう

コンサートへの市民参加の増加



### 【まちのシンボル】

「音楽のまち・かわさき」を国内外に発信  
音楽を通じてシビックプライドを高める

まちのシンボルとしての認知度向上



### 【未来】

子ども達の感性豊かな心の成長と豊かな人生

子どもたちが音楽と関わる機会の増大



### 【多様性】

多様性を認め合う社会、誰もが文化芸術に親しむ

コンサートに出かけやすい環境づくり

多様な人々による演奏参加機会の創出



## (2) 平成31年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	フランチャイズ・ オーケストラ・プロジェクト ミュージア川崎シンフォニーホール 15周年記念事業	2019年10月5、6日	『シェーンベルク「グレの歌」』 指揮：ジョナサン・ノット 管弦楽：東京交響楽団 他	目標値	1,784
		ミュージア川崎 シンフォニーホール		実績値	2,873
2	ホールアドバイザー 秋山和慶&佐山雅弘企画	2019年4月7日	指揮：秋山和慶 ヴァイオリン：服部百音 ヴォーカル：清水アキラ 他	目標値	1,300
		カルッツかわさき		実績値	1,038
3	ホールアドバイザー 小川典子企画	2019年9月28日	ピアノ：小川典子 トーク：高坂はる香	目標値	600
		ミュージア川崎 シンフォニーホール		実績値	511
4	パイプオルガン・ コンサート・シリーズ	2019年9月8日他	パイプオルガン：アルフィーロ・ ガスト、大木麻理、青木早希 他	目標値	2,353
		ミュージア川崎 シンフォニーホール		実績値	2,357
5	フェスタ サマーミュージア KAWASAKI 2019	2019年7月27日～ 8月12日	管弦楽：東京交響楽団、新日本フ ィルハーモニー交響楽団、東京 都交響楽団など合計10団体 他	目標値	28,000
		ミュージア川崎 シンフォニーホール 他		実績値	27,278
6	モーツァルト・マチネ	2019年8月24日 他	指揮：沼尻竜典、 ジョナサン・ノット、佐藤俊介、 原田慶太楼 他	目標値	4,000
		ミュージア川崎シンフォ ニーホール		実績値	3,227
7	地域連携・アウトリーチ公演 事業	2019年4月～ 2020年3月	ピアノ：小川典子 打楽器：Tuk-Pak 他	目標値	各回100
		川崎市立中央支援学校 他		実績値	1,156
8	ミュージア・ワークショップ・ インターン	2019年4月～ 2020年3月	講師：マイケル・スペンサー 他	目標値	36
		ミュージア川崎 シンフォニーホール 他		実績値	27
9	若手支援事業	2019年5月～ 2020年3月	ピアノ：黒沼香恋 他	目標値	80
		ミュージア川崎 シンフォニーホール		実績値	364
10	※公演中止 音楽大学フェスティバル・オ ーケストラ演奏会	2020年3月28日	指揮：井上道義 管弦楽：音楽大学フェスティバ ル・オーケストラ（首都圏9音 楽大学選抜メンバー）	目標値	1,390
		ミュージア川崎 シンフォニーホール		実績値	0
11	ジュニア・オーケストラ育成	2019年4月～8月	指揮：江上孝則 管弦楽：かわさきジュニア・オ ーケストラ 他	目標値	700
		ミュージア川崎 シンフォニーホール 他		実績値	795

12	音の放課後プロジェクト； 人材育成部門	2019年4月～ 2020年3月	ジュニア・プロデューサー（川崎 市内小学生12名） 他	目標値	112
		ミュージザ川崎 シンフォニーホール		実績値	151
13	音の放課後プロジェクト； 普及啓発部門	2019年5月4日 他	講師：マイケル・スペンサー オルガン：大木麻理 他	目標値	1,732
		ミュージザ川崎 シンフォニーホール		実績値	3,368
14	MUZA ジルベスターコンサート 2019	2019年12月31日	指揮：秋山和慶 ヴァイオリン：成田達輝 声楽：大山大輔、小林沙羅 他	目標値	1,354
		ミュージザ川崎 シンフォニーホール		実績値	1,452
15	ミュージザの日2019	2019年7月1日	指揮：秋山和慶 管弦楽：東京交響楽団 司会：朝岡 聡 他	目標値	1,500 (10,000)
		ミュージザ川崎 シンフォニーホール		実績値	1,243 (12,875)
16	バリアフリー対応	2019年4月～ 2020年3月	各事業で実施	目標値	-
		ミュージザ川崎 シンフォニーホール		実績値	-
17	多言語対応	2019年4月～ 2020年3月	各事業で実施	目標値	-
		ミュージザ川崎 シンフォニーホール		実績値	-

## 2. 自己評価

### (1) 妥当性

自己評価
<p>事業計画に必要な構成要素が有機的に連関し、当初の予定通りに事業が進められているか。</p> <p>ミュージア川崎シンフォニーホールは、川崎市が国内の産業構造の変化に合わせて工業都市から文化都市へと変貌していく中、川崎市の新しい都市イメージ「音楽のまち・かわさき」（音楽によるまちづくり）を推進するためのシンボル施設として2004年にJR川崎駅前に音楽専用ホールとして開設され、幅広い事業展開を行ってきた。ターミナル駅直結の立地を活かし、首都圏全域から集客する音楽の殿堂的な役割と、公共文化施設として地域文化の中核を担う役割を両立する使命を帯びてきた。</p> <p>社会経済環境の変化は大きく、2020年東京オリンピック・パラリンピックを契機に文化が持つ力、果たすべき役割がますます重要視され、国においては劇場法や文化芸術基本法、文化芸術推進基本計画が、川崎市においても、新総合計画や第2次文化芸術振興計画、かわさきパラムーブメント推進ビジョン等の改正、制定に反映された。それらを受けて、ホールのミッションである、「すべての人がつながるまち～共生社会の実現～」を目指し、最高峰の音楽芸術の創造・発信から、市民の音楽活動、子ども達の未来、あらゆる人々が共に鑑賞できる場の創造を意識した事業計画となっている。</p> <p>平成31年度は平成31年1月から機械設備等更新工事のため6か月間休館（平成31年度は3か月間）、7月1日にリニューアルオープンをし、休館中も含め概ね計画通りの事業展開を図ってきた。しかし、新型コロナウイルス感染拡大防止のため令和2年3月以降の公演が自粛となり、助成対象事業においても公演中止が数件発生した。そのうち「モーツァルト・マチネ（3/14公演）」（事業6）は、無観客公演として実施し、CD録音とニコニコ生放送で配信し、客席数をはるかに超える約73,000人が視聴。テレビや新聞でも大きく取り上げられ、クラシック音楽の新しい楽しみ方として大きな話題となった。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p> <p>前述の通り、アウトカム・目標設定の考え方は国および川崎市の政策に基づき、地域の実情を踏まえ、事業計画とともに設定をし、事業全体は計画通りに実行されているため、概ね目標を達成している。</p> <p>特に注力した開館15周年記念公演（事業1）については、ジョナサン・ノット（東響音楽監督）&amp;東京交響楽団が第32回ミュージック・ペンクラブ音楽賞「オペラ・オーケストラ部門」を、東響コーラスが「室内楽・合唱部門」を受賞。いずれも受賞理由のひとつに本事業の大成功があげられた。また、「音楽の友」誌『コンサート・ベストテン2019』においても、国内企画最高の第6位にランクされ、これまでホールとフランチャイズ・オーケストラが共同で実施してきた取り組みが音楽的意義の高いものと認められたものとする。</p> <p>近隣の劇場や団体、教育機関（小・中・高等学校、音大）等と連携した人材育成事業についても、その地域における社会的課題などと向き合いながら、多角的な事業展開を行っている。</p> <p>特徴的な取り組みとして地域連携、まちづくり事業に位置付けられる「ミュージアの日」（事業15）、広い視点での人材育成を行っている「ジュニア・プロデューサー」、「リトルミュージア」（同12）など、それぞれの場面で適切に組み合わせる推進していくことが、国際レベルの音楽創造の発信という「高さ」を追求すると同時に、より多くの様々な市民がミュージアで音楽に親しむ「幅広さ」も目指して、「音楽のまち」の“シンボル”としてシビックプライドの醸成に寄与することができたものとする。また、前述の通り、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため無観客、動画配信を行い大きな反響を得られた。急な環境変化に柔軟的確に対応できたことは、今後のクラシック音楽のみならず、エンターテインメント業界にとって大変有意義で、社会的、経済的に大きな意義があったと考える（同6とその他公演を含めて約20万人が視聴した）。</p>

## (2) 有効性

### 自己評価

目標が達成し、アウトカムの発現は可能か。

#### ■フランチャイズ・オーケストラとともに国際レベルの音楽創造・発信を推進する

海外オケ2団体、開館15周年記念公演(事業1)を実施し、国際レベルの公演を実現した。とりわけ開館15周年記念公演は、音楽監督ジョナサン・ノット&東京交響楽団が第32回ミュージック・ペンクラブ音楽賞「オペラ・オーケストラ部門」を、東響コーラスが「室内楽・合唱部門」を受賞。いずれも受賞理由のひとつに本事業の大成功があげられた。また、「音楽の友」誌『コンサート・ベストテン2019』においても、国内企画最高の第6位にランクされ、目標の達成とアウトカムの発現を確認している。また、これらの事業を海外へも積極的に発信するため英語ページの標準化を図った。

(ミュージザ公式ウェブサイト:ユーザー 485,427名/ページビュー 3,105,511件 ※うち約10%は海外からのアクセス ※平成31年4月~令和2年3月の合計値)

#### ■我が国のオーケストラ文化発展への貢献

ホールのメイン事業の一つであるサマーミュージザ(事業5)では初めて地方オケ1団体が出演、完売となり、首都圏の音楽祭から“日本の音楽祭”へと大きく躍進した。また、来場者アンケート結果より、当日来場公演の満足度(「とてもよかった」+「よかった」)は98%を記録。特に「とてもよかった」と評価した人は80%、2018年に比べ6ポイント上昇し、充実した内容を提供できたと言える。

#### ■コンサートへの市民参加の増加

市民が参加する音楽祭の事業実施と、鑑賞機会の提供をすることでアウトカムの発現を確認している。

(市民が参加する音楽祭等は4公演;参加者数は約3,200名/入場者数はのべ9,000名)

#### ■まちのシンボルとしての認知向上

サマーミュージザ(事業5)、ミュージザの日(事業15)の協力提携企業・店舗・団体の維持。

#### ■子どもたちが音楽と関わる機会の増大

パイプオルガンレッスンでは、参加者の中から音楽大学へ進学する者が出るなど着実に人材育成につながっていることがうかがえる。毎年希望者が多く抽選になる「ジュニア・プロデューサー」は、「リトルミュージザ」への継続者もあり、両事業で得た経験が特別なものであることがうかがえる。(事業12)

鑑賞面では複数事業でU25チケットを設定。年間の平均利用率は5%、事業によっては10~20%の利用も見られ、家族連れでの来場促進にもつながったと考える。

また、教育機関との連携により、定期的な情報発信、子ども達が音楽に関わる機会の提供を行っている。(音の放課後ニュース年4回;328,000部発行/ロータリーシート実施公演6回;52人参加)

#### ■コンサートに出かけやすい環境づくり

令和2年度から本格導入をする「ダイバーシティスタッフ制度」に向けて、研修や様々な来場者のニーズを把握する調査を実施。車椅子や白杖等、支援を要する来場者への丁寧な対応と、あわせてその際にご意見を伺うよう努め、今後の対応にも活かしている。

#### ■多様な人々による演奏参加機会の創出

ホームページのアクセシビリティの向上、ホールパンフレットの多言語化(5か国語)を推進。鑑賞機会の提供として、川崎市内にある特別支援学校への訪問や、支援学校分教室と通常級の交流コンサート、NPO法人との連携により、アウトリーチ公演を実施できた。また、インクルーシブ・プログラムの実現へ向けて、連携をさらに強固なものにしながら実現に向けた取り組みを続けている。

### (3) 効率性

#### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んでいるか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んでいるか。

#### ■事業期間について

今年度実施した17事業のうち13事業では計画通り完了できた。残り4事業（事業6、7、9、10）については、新型コロナウイルスの影響により一部内容の変更、または、中止となったため計画通り実施できなかった。

#### ■事業費について

全体の事業費は、申請額（予算額）に対して決算額が7.1%減であった（平成31年度実績報告書より）。どの事業でも概ね計画通りの執行状況であったが、新型コロナウイルスの影響で中止になった事業で支払を行えなかった経費があるため「出演・音楽・文芸費」で支出が抑えられた形になった。

#### 【公演事業】

開館15周年記念公演（事業1）：当初の発表から出演者の変更あり。理由は、山鳩役に出演予定の藤村実穂子本人の都合による出演キャンセルであった。また、チケット収入は当初予定の151%となり助成により効果の高い事業を実施できた。

サマーミュージア（事業5）：5公演が完売し、過去最高とほぼ横並びとなる約34,000名の入場者数を記録し（\*1）、助成による効果的な広報活動によって実現した結果と推察する。

#### 【人材育成、普及啓発】

ミュージア・ワークショップ・インターン（事業8）：これまで年数回行っていたファシリテーター養成講座を、今年度からはより内容を深めた実践と継続的なフォローアップによる人材育成事業に進化させた。他の施設・団体とも連携してワークショップのノウハウを幅広く得ることができた。（※新型コロナウイルスの影響により、成果発表会は中止）

#### 【バリアフリー、多言語対応】

点字プログラム作成のため点訳料を計上していたが、実際には視覚障害者からの申し込みがなかった。点字プログラムのニーズの確認と、当事者への周知方法の見直し、さらに点字プログラム以外の鑑賞サポートの検討が必要と考えられる。

\*1：来場者数

2016年	約29,000人
2017年	約34,000人
2018年	約33,000人（※台風による払い戻しあり）
2019年	約34,000人

## (4) 創造性

### 自己評価

事業計画の内容が、独創性、新規性、先導性に優れている（と認められる）か。

#### ■劇場・音楽堂等を象徴する人物、鍵となる人物(キーパーソン)の存在

チーフアドバイザーの秋山和慶(指揮)をはじめ、松居直美(パイプオルガン)、小川典子(ピアノ)、3名をアドバイザーとし※、年2回の市長との会議のほか、各専門における提言(楽器のメンテナンスなど)や、事業企画への助言などにより、事業への独創性、先導性が生まれている。

※佐山雅弘(ジャズピアノ)、H30年にご逝去、後任については設置者と協議中。

#### ■専属団体、フランチャイズ団体、提携団体の存在

川崎市のフランチャイズ・オケである東京交響楽団(以下、東響)は同団音楽監督ジョナサン・ノット氏のもとトップレベルの演奏を展開、「音楽の友」誌(2020年2月号)『コンサート・ベストテン 2019』に選出される等高い評価を得ている一方で、川崎市内学校や施設への巡回公演等も実施している。

#### ■創造活動に関わる建物設備等

世界的指揮者サー・サイモン・ラトル氏が「世界最高の音響」と絶賛。クラシック音楽に適した残響設計をはじめ、様々な要素が世界最高水準のホールとして機能している。平成31年1月～6月に実施した機械設備等更新工事では、スピーカーの入れ替えにより、全方向への適切な音響を確保、一部の客席において発生していた聞こえづらさが改善された。

#### ■公演事業

・開館15周年記念公演(事業1)は実演機会がなかなか無い巨大編成の「グレの歌」に挑戦し、パイプオルガン事業(アドバイザー企画;事業4)ではパントマイムと音楽を融合させ独創的な演出を施すなど、新たな創造活動に取組んだ。

・サマーミュージザ(事業5)では初めて地方のオーケストラとして仙台フィルハーモニー管弦楽団を迎え、首都圏の音楽祭から日本の音楽祭へと拡がり、高い水準の公演を実現。さらに、ホール周辺の店舗とパートナーシップを組み、地域の活性化にも寄与した。

#### ■人材育成、普及啓発

・12名のジュニア・プロデューサー(以下、Jr.P)が会議を重ね、出演者とのやり取り等、本格的な公演制作を体験。その内容から参加者、保護者の高い満足度にもつながっている。リトルミュージザはJr.P経験者で構成され、ホールの事業により主体的に携わっている。このユニークな取組みは先導的で独創的と言える。

・パイプオルガンを有するホールとして、将来のオルガン界および音楽界を担う人材を育成することを目的とした活動にも力を入れている(事業12)。また、これらの事業を外部に委託するのではなく、職員やホールに関係するアーティストが自らコーディネート、ファシリテートするため、より独創性が生まれ、結果として先導性も見られる。

・「ミュージザの日」(事業15)では公演だけでなく、周辺企業や商業施設をホールが一気に繋げ、川崎駅周辺の賑わいを創出した。来場者数は平日開催にも関わらず延べ12,000名に上った。ホールが街づくりの「核」となることによって、普段は協同しない企業や商業施設が連携することができ、周辺の街の活性化につながり、経済効果もあった。この取り組みは全国でも類がなく、極めて稀な例となっている。

## 自己評価

事業の実施によって、当該劇場・音楽堂等の国内外での評価の向上につながっている（と認められる）か。

### ■メディアへの露出

特筆すべきは、新型コロナウイルス感染拡大防止のために中止となった公演の CD 録音、インターネットでの生放送の取り組みについての反響である。大手新聞各社、テレビ局の取材・問い合わせが開館以来最大の反響であった。これは不測の事態からなる計らずも起きた反響ではあるが、クラシック音楽の新しい可能性について、業界全体、社会全体へ投げかける事ができ、劇場としての大きな役割を担う事ができた。また、音楽の友誌（2019年7月号）において実現した「川崎市市長×ホールアドバイザー小川典子対談」では、川崎市とミューザの良好な関係をアピールすることに繋がった。

### ■ソーシャルメディアでの観客、参加者等の反応（鑑賞者アンケート含む）

- ・友の会会員（有料）4,003名…毎月DM発送／ウェブ会員（無料）36,791名（2020/3/31現在）
- ・公式ウェブサイト：ユーザー 485,427名／ページビュー 3,105,511件 ※うち約10%は海外からのアクセス
- ・フォロワー数：フェイスブック5,557名／ツイッター8,199名／インスタグラム733名（各2020/4/20現在）
- ・新型コロナウイルス感染拡大防止のためニコニコ生放送にて2公演を配信。約20万人が鑑賞。
- ・鑑賞者アンケートは、年間を通じてフォーマットを統一、第三者機関の分析により多角的にニーズを明らかにしていく。友の会会員に対しては3年に一度調査を実施、報告することでニーズを把握し相互的な関係を維持している。

### ■専門誌等での評価

- ・グレの歌 ・無観客演奏会 ・フェスタ サマーミューザ KAWASAKI

### ■視察・研修の受入状況

視察：全国から8件を受け入れた。研修：10名（大学生から社会人まで）

講師派遣：他の施設からの依頼でセミナー等に職員を派遣。事例紹介やパネラーとして登壇した。

### ■海外又は国内の他の劇場からの招聘実績

海外オーケストラ2公演を主催し、国際的で高水準の公演を実施し注目を集めた。

### ■取組がもたらした文化芸術に対する効果

川崎市フランチャイズ・オーケストラが活動拠点とする劇場としてオーケストラの目指す音楽づくりに関わる事により、演奏団体は技術向上、それにより劇場は高水準の芸術を提供できるという、双方にとってより良い関係の構築ができると考え、2016年度より「フランチャイズオーケストラ・オペラプロジェクト」を新規事業として実施。事業1が国内外で高い評価を得ることが出来たのも、単年度ではなく長期的な計画のもと取り組んできたことが大きな効果として表れている。

### ■地域社会等に対する効果（観光、経済、教育、福祉等）

- ・設置者である川崎市が設置した評価委員からは、77点でBランクの評価を受けており、これは市の基準としては高いものとなっている。また、市幹部との定期的な会議の実施等、密な連絡・情報共有を心掛けている。
- ・市教育委員会、校長会との連絡会を設けることで、地域の教育とのつながりを強固なものにしている。
- ・市内のNPO法人や、地域のロータリークラブ等と連携・協力することで、子ども達の鑑賞機会の提供を継続的に実施している。

## (5) 持続性

### 自己評価

事業計画を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

持続的なアウトカムの発現・定着が期待できるか。

令和2年度から新たに始まる指定管理期間（第4期/10年）に向けて、組織目標と中長期的な計画の再確認を行う年となった。各課の組織活動の持続的な発展については、四半期毎に「課題と重点取組」を作成・検証することによりPDCAを実施し、全職員にて情報共有することで、全体での課題の把握、意識統一を行い、ビジョンや目標を達成すべく、更なる機能向上を図った。

また、就業規則の改定等による長期的・継続的な雇用環境づくり、自己評価制度の導入、女性従事者が多い職場ならではの女性の就業環境向上への取組み等、労働環境の整備による職員の長期雇用への取り組み、人材確保、職場での各テーマに基づいた専門的な研修実施及び外部でのセミナー・講習受講による職員のスキルアップを図った結果、主催事業等の充実やより魅力的な施設運営に反映され、入場者確保につなげている。

今後の持続的なアウトカムの発現・定着に向けては、債務負担行為による指定管理料の安定した獲得、事業積立金の実施、効率的な執行等経営努力による事業経費の削減、事業収入を獲得するためのホールファンである友の会会員の確保、外部資金調達の大きな資金源となる企業や個人からの寄付「ホールスポンサー制度」の拡大、民間企業からの協賛金獲得等、様々な面からのアプローチを図った結果、事業活動支出はほぼ予算どおりとなったが、事業活動収入が予算額を上回ることで、安定した経営を実現できた。

このような効率的な事業執行等で生じた利益は将来の利用者サービスのために積み立て、更に利用者サービスや新たな事業実施等へ還元することにより、公共ホールとしての役割を果たし、更なるホールファンを増やしていく好循環を生み出していく。「音楽のまち・かわさき」の認知拡大や、更なる市民の参加を図り、最終的には市民の幸せに繋がるよう、持続的なアウトカムの発現・定着につなげる。